本日も、熊本労災病院のホームページを訪れていただきありがとうございます。
朝晩はようやく過ごしやすくなりましたが、まだ真夏日が続きます。10 月でのこの暑さは記録更新ものです。熊本での 10 月最高気温は平年 25 度くらいですが、今年は現時点まで 30 度を下回ったことはありません。「衣替え」どころではありませんね。
そんななか、ＣＯＶＩＤ-１９は幸い急速な感染改善がみられています。当院でも、面会禁止を解除し、外来での健康観察用紙の記載も中止して利便性向上を図りました。職員にも、日常の感染防御行動は保ちつつ、欠落してきたコミュニケーションの改善を図っていただくよう、要するに「注意しながら飲み会してもいいよ！」とお願いしています。

ＣＯＶＩＤ-１９改善傾向の中ではありましたが、９月１０日に、県のコロナ入院調整本部の指令塔である、熊本大学の呼吸器内科坂上拓郎教授にお出でいただき、関連医療機関の皆様や職員向けのハイブリッド講演会を実施しました。ちまたに溢れる情報が整理できてとても有意義な御講演でした。坂上先生は、私の母校である新潟高校の２０年後輩にあたります。私の大学退職後に熊大に着任されましたが、新潟モンが希有な熊本で、貴重な存在です。とても大柄なかたで、「新潟では杉と男は育たない」という言い伝えがありますが、りっぱに育って熊本で大活躍しておられます。
新潟ついでに、もう一人最近話題の高校の後輩がいます。１０月から民報のキャスターになった大越健介さんです。彼も、新潟市内の中学から新潟高校に進んで球児として活躍し、その後東大の野球部で 8 勝した（２７敗もしてますが）ピッチャーとして有名です。私より９年後輩ですが、ただ同窓というだけで、６年前に熊本で主催した第５１回日本移植学会総会での講演を依頼したことがありました。同窓会長からも口添えをいただきましたが、当時はＮＨＫの社員で、「一社員が自分の意見を講演で話すことは妥当ではない」と体よくご遠慮されてしまいました。フリーになった今ならいけたかもしれません。番組の担当初日に、新内閣の組閣や、専門領域の野球では大谷選手が最終試合でホームランを打つなど話題に恵まれて、「持ってるな-」と見ておりました。熊本でも、熊高やら済々黌やら八校やら商大附属やら、出身高校を云々されることが多いですが、生地から遠く離れた私も中学や高校のことを鮮明に懐かしく思い出します。歳のせいでしょうか。

１０月は移植医療の推進月間です。上記の、日本移植学会総会も１０月に行いました。熊本市にお願いして、熊本城を、移植のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしていただいたことが思い出されます。学会会場のホテル日航熊本もライトアップしてくれました。今年は、全国グリーンライトアッププロジェクト２０２１の一環で、県内では、お城、サクラマチや県庁なども含め、都道府県として全国で一番多い１３カ所の事業所や病院でグリーンライトアップが行われます。当院も１１日から１８日に予定しています。ちょっと混乱しますが、グリーンは、目の病気である緑内障のシンボルカラーでもあり、毎年３月には、「ライトアップ in グリーン運動」と称してライトアップが行われています。ピンクリボ

ン=乳がん啓発がカラーリボンを病気の象徴にする草分けのように思いますが、その啓発月間も１０月です。当院でも、ピンクリボンキャンペーンの一環で乳がん検診の啓発ビデオを作成し、ホームページなどで広報します。一度ご覧下さい。

　いろいろなカラーをきっかけに、多くのかたに病気の理解を深めていただき、悩み苦しむかたを少しでも少なくしたい、支援したいと医療者がみな一様に願っています。折に触れて、みなさんも意識を向けていただくことを願っております。